

宮城県多賀城高等学校災害科学科開設式 校長挨拶

本日、多賀城高校に、宮城県教育委員会が策定した防災系学科設置基本構想に基づき、災害科学科が開設されました。学科開設に関わっていただいたすべての関係機関、関係者の皆様に心から感謝申し上げます。また、本日はご多忙のところ、東北大学災害科学国際研究所 所長 今村文彦 様をはじめ、多くのご来賓の皆様にご臨席賜りましたこと、重ねて感謝申し上げます。

さて、東日本大震災から五年が経ちましたが、言葉では言い表せない苦しみを背負っている人々がいます。ここ多賀城も歴史に類をみない都市型津波に襲われました。防災無線が聞こえない中、多賀城高校では下校を指示してしまい、奇跡的に全員無事でしたが、市域のおよそ三十四パーセントが津波の被害に遭いました。そうした中、震災からの創造的復興を目指して、防災や減災、災害そのものについて学ぶ高校生を育てるため、専門的な防災教育を実施する災害科学科の設置校に本校が選ばれました。

ここで、あらためて災害科学科の三つの教育目標を確認します。第一に、「人とくらしを守る」という高い志を醸成し、職業として防災にかかわるだけでなく、地域や企業などの様々な組織でリーダーシップを発揮できる人材を育成する。第二に、将来、大学等へ進学し、高い専門性を身につけ、研究者や技術者等として、まちづくり、教育、医療や看護、国際支援、災害救助など幅広い分野で国際的にも活躍できる人材を育成する。第三に、地域との連携による先進的な防災教育に取り組み、その成果を広く情報発信し、小学校、中学校を含む県全体での防災教育充実へとつなげるパイロットのな役割を担う、とあります。

私たちはこの教育目標や教育方針に従い、災害を科学し、防災意識を向上させ、将来において社会に貢献し、かけがえのない命とくらしを守る生徒を育てて参ります。栄えある一回生となった皆さんは、高い志をいただいて災害科学科に入学してくれました。皆さんへの期待は大きく、また、被災地で今も苦しむ人たちにとっては希望の星です。どうか、災害科学科の特色ある科目や探究的な活動に積極的に取り組み、学んだことを発信してください。

本日は、災害科学科の開設記念として、東北大学災害科学国際研究所長の今村文彦先生にご講演をお願いしましたところ、ご快諾をいただきました。短い時間で、はなはだ失礼とは存じますがこの後、ご講演を頂戴します。どうぞよろしく願います。

多賀城高校は、全国のパイロットスクールとして、災害科学科にとどまらず普通科においても「くらしと安全A」や「情報と災害」、加えて課題研究などとおして防災・減災教育に取り組んでまいります。本校での学びを契機として、上級学校でさらに、人と暮らしを守りよりよい社会づくりに貢献できる研究に取り組み、それぞれの仕事を通じて世界に羽ばたいてほしいと願っています。未来の創造者である皆さんの十年後、二十年後の活躍を信じて、災害科学科開設にあたっての校長挨拶とします。

平成二十八年四月八日

宮城県多賀城高等学校校長 小泉 博